

2005 FJ1600 鈴鹿シリーズ

■4月8日 金曜日 晴れ 西コース

前回のレースを悔しい結果で終えた事もあり、今回のレースを心待ちにしていました。

そして、始まった金曜日、前回までの練習から大分セットも決まっていて、各セッションでトップタイムを記録する事が出来ました。

今回は、セットが煮詰まってきた分、タイヤテストなどに時間を使う事が出来、空気圧を変更しながら乗ってみて、自分のフィーリングやデータロガー等から、「タイムを出すためにはタイヤをどういう状態にしたらいいか？」というのが分かってきて、もの凄く大きな収穫になりました。

■4月9日 土曜日 晴れ

この日は、朝から新しいブレーキパッドを入れて、タイヤも前日より良い状態の物で走り始めました。すると、自己ベストも更新でき、予選を想定していたタイムと同じくらいのタイムが記録出来ました。

このときの走行をコースの外から見てもらいながら区間タイムを計ってもらい、チームメイトと比べ、良くないと思われるブレーキの踏み力やライン等を次のセッションで試してみました。そして、その走り方がきっちり出来ているかをデータロガーで確認して、この日は早めに走行を切り上げました。

残りのセッションは、コースの外から他のドライバーの走りを見て、「ブレーキの使い方、走行ライン等、自分と違う走り方をしているのは何故か？」という事を考える事が出来、がむしゃらに走るだけが練習じゃなく、他人の走りを外から見るとも凄く勉強になるというのを実感しました。

■4月10日 日曜日 曇り 公式予選

この日は、朝が曇りで天気予報では夕方から雨という予報でした。自分ではどんな天気でも自分の力を出し切る事が出来れば、ポールポジションも十分狙えると思っていました。

走り始めて4周目くらいにはトップタイムを記録でき、そこからもどんどんタイムを縮めて、予選時間の半分過ぎた頃には2番手に0.7秒くらいの差を付けました。しかし、その後、他車のスリップを使いタイムアップを狙ったのですが、他車との間隔を計り間違え、逆に自分のスリップを使われた事によりタイムを大分詰められてしまいました。

その結果、ポールポジションは取られたものの、約0.1秒という僅差で課題の残った予選でした。

■4月10日 日曜日 曇り 決勝

レース前に雨が降り、その後どの様なコンディションになるか心配したのですが、決勝前には完全なドライコンディションになりました。

フォーメーションでしっかりタイヤを温めて決勝スタート。

シグナルレッド・消灯・スタート。

タイミングこそバッチリだったものの、ホイールスピンの多くクラッチミートも失敗してしまい2番手に後退。しかし、1周のタイムには自信もあったので無理をせず確実にパス出来るチャンスを狙っていました。

そして、2周目のストレートで相手をパスしてトップに浮上。そこからは毎周トップが入れ替わる大接戦でした。その中でも自分の速いコーナーを冷静に考える事が出来、10周目に鈴鹿最速のコーナー130Rでアウト側から仕掛け、再びトップに浮上。去年までの自分ならば、そこで堪えきれぬ力は無かったと思いますが、今年はタイヤの限界等も感じながら走れるようになっていたので、しっかりコントロール出来ました。

そのまま2番手を引き離したかったのですが、相手のストレートスピードも速く最終ラップに再びトップを奪われてしまいました。自分としてはワンチャンスにかけるしかなく、トップのテールにピッタリ張り付き、最終コーナーからの立ち上がりでスリップから飛び出し、芝生にはみ出しながらほぼ横並びでチェッカー。結果は68/1000秒差で2位でした。

せっかくの勝てるチャンスをものに出来なかった。

自分の力の無さに悔しくて涙が出ました。しかし、今回のレースは「単独でタイムを出すライン」、「相手がいる時にタイムを出すライン」等の違いや、「レース全体のどこのタイミングで相手をパスしたらいいか？」等、勉強になり、これからレースをやっていく中で凄く大事な事を学べたと思います。

次のレースでは今回のレースで学んだ事、これからやっていかなければならない課題をしっかりとクリアして、次こそ表彰台の真ん中に立ちますので、ご指導、応援よろしくお願いします